# 御 在 所 の 風

7 July

志布志市立田之浦小学校
学校だより　文責：　榊　宏三
令和２年７月２１日発行


教育目標　「心豊かで，たくましい体をもち，自ら学ぶ『田之浦の子』を育成する」
校　　訓　「やさしく（キラキラ）　かしこく（ハキハキ）　たくましく（キビキビ）」
めざす子どもの姿　「思いやりの心をもち，相手を尊重できる子」
「自ら学び，考え，粘り強く学習を続ける子」「命の大切さを知り，自ら鍛える子」

## 校長室より

子どもたちのよさに気づく！！

### ～「バランス」と「タイミング」の芸術～

校 長　榊　　宏 三

梅雨開けまでもう少し，まぶしい日差しが待ち遠しい日々です。7月上旬には，新型コロナ感染予防や大雨対応等で，保護者の皆様には御理解と御協力をいただき，誠にありがとうございました。

さて，先日，前任校の保護者の方とお話しする機会を得ました。その方は，ボランティア活動として様々な保護者の方と交流をされています。その方のお話に感心させられました。

それは，保護者数名と電車に乗っていた際の出来事です。ある程度の空席が見られていたので子どもたちは順番に席に座っていました。次の駅で一人の高齢者が乗り込んでくると，そばにいた保護者の方が「席を空けてください」とそっと子どもたちに呟いてくださいました。すると子どもたちは，すぐにその意味を理解し，席を譲っていました。そこで終わらず，その保護者は子どもたちを笑顔で褒めてくださいました。その様子を見ていて，きっとこの子たちは次からは自分の判断で席を譲ることができるだろうと確信しました。

また，ある保護者は，電車での振る舞いが悪かった子どもに，その場で「叱る」ことをしてくださいました。その瞬間を逃がさなかったおかげで，その子どもは，自分の行いを振り返ると共にその後はきちんとした振る舞いで過ごすことができました。決して感情的にならずにその行為に対して「叱る」ことをしてくださったおかげで，子どもも素直に受け入れることができたようです。子どもは，自分のした行為を時間とともに忘れてしまいます。ですから，その瞬間を逃がさないことが大切になってきます。

自己肯定感を高めるには，褒めることは大変重要な要素です。しかし，ただ何でもかんでも褒めればよいのではないのです。褒めてばかりいると子どもたちは褒められることに慣れてしまい，自分の言動に対しての価値観を見失ってしまいます。反対に叱られてばかりいると自己肯定感が低下し，意欲の喪失と共に自己決定する能力が失われてしまいます。

そこには，「バランス」と「タイミング」が大切な要素となってきます。ここぞという時に「褒め」，その瞬間の行為に対して「叱る」ことが最も大切なのではないでしょうか。

あるスポーツ番組でフットサル日本代表監督を務めていたミゲル・ロドリゴ氏が言っていた言葉を思い出しました。それは，

「褒めるとは，『バランス』と『タイミング』の芸術」

という言葉です。まさしく先ほどの電車の光景がこの言葉に凝縮されています。われわれ教職員も学校生活の中でこの「バランス」と「タイミング」を磨いていかなければなりません。

是非，御家庭でも子育ての一つの指標として実践してみてはいかがでしょうか。